

ブライト ネス

B r i g h t n e s s

三和グループ社内報[ブライトネス]2026 夏号

株式会社三和サービス

三和道路維持株式会社

株式会社エイチ エム エス

サンワ警備保障株式会社

101

わからないから知りたい！

探究心と向上心を持ち続け、次の一歩へ。



今年も暑い夏がやってきました。これから続く暑さに負けず、心身健やかに乗り切りたいものです。

ブライトネスは今号で101号！次の200号を目指してまた歩踏み出します。

この記念すべき第二歩の特集は、三和サービス・林信之会長のインタビューをお届けします。会社の将来像から人生のお話まで盛り沢山です！



Let's
interview!

●データサイエンス、文学探求と会長の向上心には毎回驚きます。今、どんなことを構想されているのでしょうか。まずビルメンテナンズ業についてお聞かせください。

会長 はい、わかりました。まず、清掃や警備の仕事は無くなることはないと思います。ただし、デジタル化が必要になるのは間違いありません。デジタル化していかないと、世の中についていけないのは我々の業界も同じ。デジタル化することによって「知恵」をつけるか。知恵をつけられれば次に進む、と考えるべきです。

●デジタル化とは？たとえば何をイメージしたらよいでしょう。

会長 清掃であれば自動清掃を思い浮かべる人が多いと思います。その自動清掃を安全に運用していくには、機械を適切に使える人材の導入が必要となつてきますね。では警備のデジタル化とは？と考えてほしいのです。何をデジタル化するのか、それを支える人材とは？と。

清掃にしても警備にしても、これまでのように安売りの価格競争をするのではなく、これからは、今までのやり方・仕方という知恵を売っていくことが重要。言い換えると、我々のノウハウの蓄積をどうブランディングしていくか。自分自身、もっと勉強しないといけないと思っています。

●そういえば会長はアメリカ滞在中に、自動運転のタクシーに乗車されたそうですね。

会長 そうなんです。アメリカではドライバー不在の自動運転タクシー（ロボットタクシー）が普通に走っていて、実際に使ってみると本当に便利的確。スマホで操作すればタクシーがやってくるわけですからね。

わざわざ苦労してタクシーを拾わなくても、簡単に確実に乗車できる便利さと安心感。それをアメリカに行つた際に経験し、大変驚きました。それに比べ、日本ではまだそう簡単には自動運転は導入されません。このようにタクシー一つとつても、残念ながら日本は、デジタル化へのスピード感がないと感じます。

●デジタル化のほかにも、三和サービスを核とする三和グループの将来像にキーワードとなる言葉はありますか？

会長 私が今思っているのは、市町村の財政の流れを研究して、コンサルタント業をしたい、ということです。

ビルメンからコンサル業への展開というところ、驚かれるかもしれませんが、でも、ビルメン業という経験が深い企業は、「こんなにも難しいことがやれるんだ」と、世間のイメージを作り変えないといけない。現在の世間の評価に甘んじるのではなく、我々自身でその評価や価値観を変えていく意識改革が必要です。

ビルメンの世界は、今や転換期にきていると感じます。私たち三和グループは、今後、どうビルメン業界に関わっていくのかを真剣に考えていくべき時が来ています。

●会長の視点はお聞きするたびに新鮮です。

会長 私はこれまで長く走ってきて「ついてこい！」というような思いがありました。そうではない、ということにも最近気づき、私の感覚が大きく変わってきました。年のせいなのか？とも思うけれど、この年になって、仕事だけでない、気持ちの余裕が出てきたことを感じます。

それは主に個人的な人生の話ですが、妻をなくして以来、20年近く自力で頑張っているのが台所仕事。90歳を超えた今でも自分が食べたいと思うものを自分で料理しています。今、今朝も自分で作って食べて出社しました。昔から朝食は大量に食べる習慣があるんですよ。今食べたいと思うのは「めざし」ですね。どこで買ってきたらいいのかな？（笑）

●文学や映画に対する探究心も果てがありませんね！

会長 入院中に偶然思い浮かんだ「花も嵐も踏み越えて♪」という歌のメロディ。これは『愛染かつら』という映画の主題歌で、実にいいメロディなんです。みなさんは知っていますか？この曲が脳裏に浮かんだのがきっかけで、文学、映画、ドラマ

の世界に興味を抱くようになったのは前にもお話しましたが、ただ、私のことですから、鑑賞して「あーよかった」では収まりません。バックグラウンドは何か？と考えたり調べたり。原作にこそ思想があると次々発見する面白さに心奪われました。さらには日本小説の良さにも気づきました。尾崎紅葉の『金色夜叉』は苦勞しましたが読み切りましたし、久米正雄の『月よりの使者』、有吉佐和子の『紀ノ川』や『青い壺』もいい舟に乗って二日かけてお嫁に行くことや、おばあさんの例えに「煙のごとく出てくる美しさ」とするなどとてもいいんです。直近では映画『眉山』の原作が、シンガーソングライターのさだまさしであることにも驚きました。彼の作品はもう少し読んでみたいと思っています。

●文学以外はいかがですか？

会長 海外にいる孫とは、彼の専門分野の話も含め、1〜2時間続けて飽きずに話ができます。

わからないから知りたい！ その思いがいつも私にはあり、好奇心を持って知らないことに挑戦していきます。だからでしようか。孫もおじいちゃんである私をバカにしなくなりました（笑）。

この年でパソコンを使っていると「凄いですね」とよく言われます。でも私はオフコン（オフィスコンピュータの略）の時代からやっていた。その理由は字が下手で、そろばんがでなかったから（笑）。やってみよう！と思いついてから行動に移すまでに時間はかかりません。オフコンから始めて、ワープロ、パソコンと続けてきて今があります。

●ところでAIは使っていますか？

会長 AIはかつて機械学習という言葉で聞いていました。私の場合、文書や提案書をつくる機会が今はないので、AIを駆使していませんが、前にAIを使って日本の小説についての問いをしたら、作家名が間違っていた。その時に、AIは気をつけなさいと感じました。AIに日本文学を読ませていないと思ったのです。

●なるほど。AIから導き出されたものを鵜呑みにしてはいけないということですね。

会長 デジタルの世界は今まで以上に加速していくと思っていて、デジタルをよほど使いこなさないといけないと思っています。

ただし、AIに関しては間違つたことも言ってくるので、そこは慎重になる必要がありますね。

●今回も多岐にわたるお話をありがとうございました。

